

安全性向上システムの概要

事故・トラブル防止システムを開発

組織の安全度を一目で把握

組織の安全度を調べる
継続的に安全性を向上させる
総合リスクマネジメントの確立へ

ひとこと 社会経済研究所 ヒューマンファクター研究センター 上席研究員 高野 研一

継続的に安全性を向上させる

安全性向上システムの構築

5年間におよび、安全診断や安全施策の提案を試行したさまざまな産業界での経験を踏まえて、安全性向上のための標準的な実施フローとして、安全診断 安全施策の提案 アクションプランの実施にかかわる手順を一貫して支援するシステムを構築しました。

安全診断と安全施策の提案を受けるだけでなく、具体的な安全施策の実施までを一貫して行なうことで、全体的なバランスを考慮した安全性の向上を図れるようになりました。

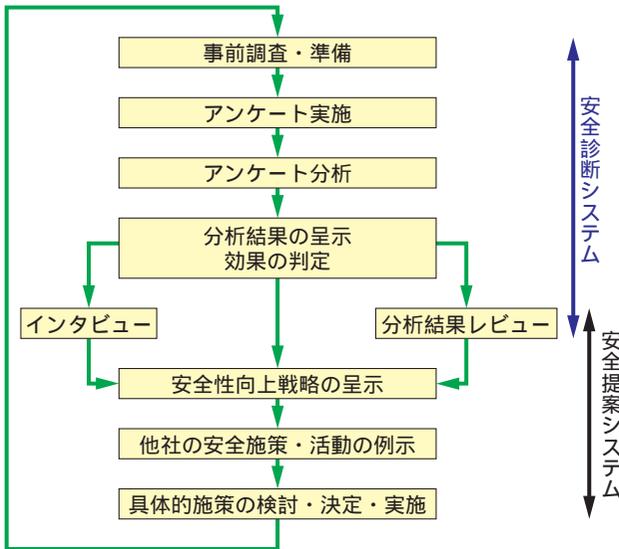


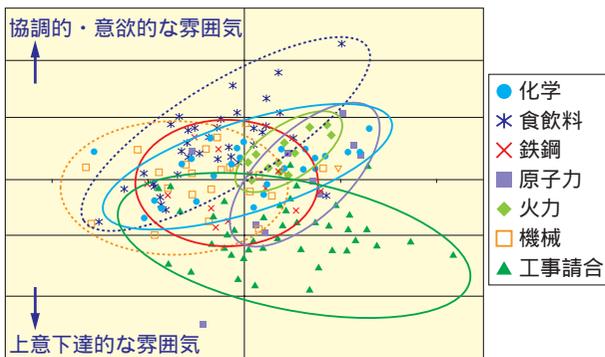
図 標準的な実施フロー

適用と効果

これまでに、このシステムを利用して改善を進めてきたいくつかの事業所の安全度の経年変化を調べたところ、実際に組織全体の安全度が向上しているケースが確認され、このシステムの有効性を確認しました。

これまでは、事故やトラブルの防止を目指して組織内で努力していても、どの程度組織の安全度が向上しているのかを知ることは困難でしたが、このシステムを繰り返し利用することで、事業所における安全度の向上を一目で確認でき、安全目標や安全対策の設定に役立てられます。さらに診断結果は、安全に向かって努力する個々のモチベーションを高める効果もあります。

このようにして、これまで測ることができなかった組織の安全度を定量的に自己評価し、具体的な改善目標や安全性向上策を立て、それを実施するというサイクルを繰り返すことにより、安全性向上への合理的な取り組みが可能になりました。



低 (-) ← 総合的安全指標 → (+) 高

図 安全性向上システム適用例



低 (-) ← 総合的安全指標 → (+) 高

図 事業所ごとの経年変化

総合リスクマネジメントの確立へ

潜在的リスクの回避

組織の安全性を向上させるためには、前述の人間の価値観や安全意識に関わる組織要因の健全性確保だけでなく、機器の配置や表示方法、また作業手順や装備などの作業環境要因が引き起こす潜在的リスクへの事前対処が必要です。

この潜在的なリスクを回避するために、事業所ごとに管理者や作業者が主体となって、過去の事故やトラブルの事例、事故につながりそうになった体験、業務改善報告、エキスパートの視点などから徹底的に潜在的リスクを洗い出し、設備や作業ごとに整理してデータベース化します。このデータベースを活用して、事前の予防的な対策や作業前に注意を促すようなシステムの提案も行なっています。

事業所の業務ごとに、このシステムを構築することによって、安全に関する知識の伝承が可能になり、作業環境要因の面からも安全性の向上を図れるようになります。

安全文化の醸成

事故やトラブルを起こしにくい組織を作り上げるためには、個々の安全に関する価値観や潜在的リスクに対する危険認識を共有化し、組織の安全度を知り、適切な安全施策を行なって常に安全性を向上させていく努力をすること、つまり組織における安全文化の醸成をしていくことが重要です。

当所では、組織の弱点を一目で把握できる安全性向上システムと、現場の作業環境要因が引き起こす潜在的リスクを回避するためのシステムの双方を提供することにより、組織の安全文化を醸成し、事故やトラブルを起こしにくい安全管理手法を作り上げるための総合的なリスクマネジメントの確立を目指しています。

ひとこと



社会経済研究所
ヒューマンファクター
研究センター
上席研究員
高野 研一

この研究は現場での安全への取り組みを評価するうえでの共通の悩み、「事故が起きた後の緊張感が持続できない」「自事業所の安全度が目に見えない」という課題に応えることを目的として1996年に開始しました。

当初の試行錯誤段階では、電気事業の現場ばかりでなく、建設業や石油化学の現場の方々にも協力をいただきました。

また、組織事故が多発した1999年以降は電力会社の出向者を含めたヒューマンファクター研究センターの総合力を発揮しながら実績を積み上げてきました。今では、恩返しの意味も含めて電気事業を中心に多くの一般企業の要請に応じてコンサルテーションを手がけています。

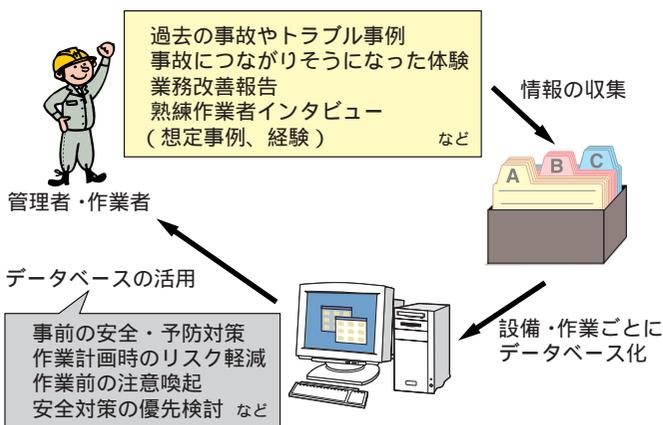


図 潜在的リスクに対処するためのシステム

既刊「電中研ニュース」ご案内

- No.414 2005-06、原油価格の見通しと影響
- No.413 CRIEPIのうごき 2005.7夏

- No.412 高温超電導ケーブルの適用性を実証
- No.411 CRIEPIのうごき 2005.4春